

ズバリ！町政を問う（議員18人）

一人持時間30分間の集中論議

Q 将来の環境衛生にどう取組か

A 協会を通して国に要望した



松浦敬潤議員

●松浦 公共下水道の終末処理場で、町内のし尿処理をしてはどうか。全国では、100箇所以上の自治体の浄化施設でし尿を処理している。「目的外使用」とか、「今の法のもとでは」など出来ない理由を並べる前に、国や県と交渉し可能性に向かってチャレンジして

はどうか。

■町長 ①受入貯水施設や前処理施設が必要
②周辺住民の理解が必要。

公共下水道事業の健全化に向けては①補助対象範囲の拡大や補助率の増 ②下水道債の特別交付など地方交付税措置の拡充 ③地区外の汚水処理などが可能となる法制度の弾力化などが必要で下水道協会広島県支部を通して、国に強く要望したところである。



完成まじかの終末処理場

Q

これからの少子化対策は

A

女性にとって働きやすい環境づくりを



松本秀治議員

●松本 少子化は切実な問題である。女性にとって働きやすい環境作り、安心して子ども

が産め、子育てできる地域社会の実現が求められている。今後、保育所の統廃合が行われようとしているが、保育所廃止予定地域の保護者には遠方への送迎により、小さい子どもを早く起こし、早く家を出ないと仕事に遅刻するなど、負担増となる。そこで、負担を軽減する支援を考え行政としての企業への支援と保護者の就労支援を行う必要があると考える。また、学童保育は今後どのようにあるべきか？

■町長 これからの少子化対策の一つが女性にとって働きやすい環境づくりと考える。企業誘致など、就労の場の確保に取組む一方、世羅町商工会などと連携した様々な就労形態

の創設についての企業啓発や育児休業制度などの指導が重要であると考え。学童保育の今後は、児童に安心安全を確保する上でも施設機能の充実や指導員の確保など、課題が多くなるが前向きに対応したいと考える。



保育風景

Q 町財政の危機感はあるか

A 厳しい予算編成である



中村幸雄議員

●中村 危機的町財政の認識と財源確保にどのように取り組まれたのか。

■町長 毎年基金（貯金）の取り崩しによる厳しい予算編成を余儀

なくされており、国の政策に対する不信感も増幅している。財源確保については、定員管理の適正化や未利用公有財産の処分など行財政改革を実行し、国・県に対して、地方交付税の財源確保や地方消費税の配分率の見直しなど要望・提案を行っている。

Q 道州制への対応は

A 議論を注視し取り組む

●中村 道州制導入の議論が深まる中、当町の対応と今後の町づくりにどう取り組む。

■町長 政府の道州制ビジョン懇談会の中間報告で概ね10年後完全移行とあり、人づくり、

財政基盤づくり、物づくり、自治づくりを着実に進め、持続可能な町づくりを推進する。

Q 荒廃する山林は防げるか

A 再生に取り組んでいる

●中村 松枯れが進行し、有害鳥獣の被害が拡大しているが、荒廃の危機にある山林の再生は。

■町長 ひろしまの森づくり事業などにより、荒廃した人工林や里山林の下刈り・除伐・間伐を行い、保水能力の落ちた山林を健全な山林に再生してゆきたい。



荒れる山林

Q 学校耐震化と生涯学習は

A 耐震化は推進してゆく



矢山 武議員

●矢山 四川大地震で学校の校舎がくずれた。我国でも多くの施設の工事がいそがれるが本町の取組みは。また4月からの生涯学習の取組みは。

■教育長 9施設で未診断であり、5年間で推進の通知があり、検討する。生涯学習推進計画により、合同事業などニーズに対応した展開をしてゆく。

Q 障害者福祉と国保税の引下げは

A 障害者の負担の引下げが七月より実施

●矢山 社会保障が後退する時、障害者自立支援法による負担増の中で、対応をもとめる。安心してサービスが受けられるように。基金を使い国保税の引下げをすることは。

■町長 負担上限を1／4まで下げ、7月から1／2になる。所得が世帯から本人になり軽減される。国保税については、現行の税率でゆくようになる。



耐震調査がまたれる小学校

Q 農業後継者の育成は

A 交付金、直払いの拡充で

●矢山 自給率が低下する中、減反を止める動きもあるが、安いままでは作る事が出来ない。価格対策とともに、早急に後継者を育てるため、月15万円を3年間支払って、育てるべきである。町の取組みは。

■町長 稲作構造改革交付金が10a当り3、461円であり、交付額は現状をみると十分であるが、農業農村の再生のために、あらゆる機関に要望し、更に施策の充実が必要と考える。

Q

後期高齢者医療制度の不備は

A

広域連合へ要望



永田英則議員

●永田 後期高齢者医療制度がスタートで、大きな混乱が生じた。制度に潜むさまざまな問題点がおき批判的になったので質問する。

①なぜ年金から「天引き」するのか。②保険料値上げは天井なしか。③保険料を滞納したら保険証を取り上げられるか。④病院から追い出されるのか。⑤延命治療は切りすてるのか。⑥健診は行政の義務でなくなるのか。⑦問題点を国の方に要望の考えは。

活実態等把握し国で検討。③一年以上滞納すると資格証明書を交付。

④病床数を確保することと在宅医療へシフトすることである。⑤凍結の方向で中央社会保健医療協議会で再検討中。⑥健康診断は努力義務です。⑦広域連合へ要望する。



Q

仮処分(裁判)申請の理由は

A

占有使用を妨害する工作物設置のため

●永田 旧世羅庁舎跡地の民地の使用賃借経過仮処分申請の理由又申請後の実態は。

■町長 土地所有者に對して協議を重ねてきたが、現時点では報告できない。また仮処分申請の理由については占有使用を妨害する工

作物を設置したため仮処分申請を弁護士と協議し行うことにした。申請後の経過は審理中であるので答弁出来ない。

Q

後期高齢者医療制度は廃止を

A

広域連合と連携し業務進める



豊田 勲議員

●豊田 75歳を区切りとして保険料天引き、給付サービスの低下、差別的扱いをするお年寄りを不安に陥れる制度は許されない。①相

談や問い合わせは。②年寄りを「姥捨て山」になつてもよいのか。③不安多いこの制度は廃止すべきだ。

A

裁判は取り下げ話し合い解決を取り下げは審理中で控えたい

Q

●豊田 町長は、町が借地していた民地の所有者と、新しい借主を裁判所に仮処分申請した。

申請の理由があるとしても、町民相手の仮処分申請は素早く取り下げて、話し合い解決

をすべきではないか。現在536万円の予算だが本裁判では莫大な費用も掛かると思われるが。

■町長 占有使用を妨害する工作物を設置されたので、再三撤去をお願いしたが叶わず、



問題となっている民地

決定した。取り下げについては審理中で控えさせてもらう。

Q 「クアパルク」はどうなるのか

A 修繕し早期の再開を目指す



仲行 洋議員

●仲行 レジオネラ菌の検出以来営業停止となっているが、プールなどの利用者は早期の再開を望んでいる。西の観光の拠点であるこの施設を今後どうされるのか。

■町長 このような事態が発生しご心配、ご迷惑をおかけしたことに對しお詫を申しあげます。施設の老朽化が原因であり、今回、修繕、機械の更新をし、衛生管理を徹底し、早期に業務の再開を目指す。せらにし旅行村は、西の玄関口として交流の大切な拠点であるので今後とも指定管理者と連携し、皆様に安心して楽しんでいただく施設にするよう努める。

Q 町内の無医地区をどうする

A 医師の確保とデマンド交通で

●仲行 町内の周辺部には無医地区が存在するが過疎化と高齢化が急激に進むなか、住民は地域医療の格差を実感している。この問題

■町長 合併建設計画では津田地区に診療所を計画しているが現状では医師確保という課題に直面しており整備

■無医地区とは

医療機関のない地域で、当該地域の中心的な場所を起点として、概ね半径4kmの医域内に人口50人以上が居住している地域であって、かつ容易に医療機関を利用することができない地区をいう。



三川地区診療所

は困難な状況である。今後は公立世羅中央病院の医師の充実を図り、医師会との連携を深める。無医地区をカバーし得る医療体制の充実に努める。またデマンド交通システムによる医療機関への利用促進を図っていく。

Q 公害は地域づくりに大きな障害

A 勧告は、改善内容で対応



射撃場入口

●小川 宇津戸地区を覆う臭気公害、今期早々には、改善勧告を出すといながらまだ聞けない。地域づくりに

■町長 今、企業側で具体的な改善計画が示されるので内容を吟味し対応する。また鉛濃度は基準値を越えてるケ所はない。住民の健康に被害がある時に調査する権限があり、今はそのおそれはない。

Q 魅力ある学校づくりは統合

A 全体としては理解

●小川 地域全体を動かす事業を地域に求めようとしなさい。小規模校になった経過を反省しないで今のやり方で地域住民の意見が集約されていると思うのか。

■教育長 住民の皆様は説明し、一部地域では異論はありましたが、全体としては理解していただいていると思っています。よって検討委員会に諮問した。11月には答申がでる予定である。



小川信晃議員

Q 障害児が安心して教育が受けられる体制を充実させる体制の充実

●小川 障害児が安心して教育が受けられる体制整備は、特に特別支援教育（特別支援学級、校内委員会、弱視の教科書など）充実につけてどのように取り組んでいるか。

■教育長 特別支援教育は、必要に応じ介助員を配置。適切な指導支援をしている。校内委員会も定期的に開催し発達障害を含む障害児童の支援、弱視の児童の教科書もボランティアグループが作成、創意工夫し授業を行っている。